THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2026.2／FEBRUARY
No.426
JSQCニュース

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506　FAX.03 (5378) 1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス　日本最大級の品質経営総合大会「クオリティフォーラム2025」
2-私の提言　AI時代の品質議論：伝統と革新の架け橋として
2-ルポルタージュ　第453回事業所見学会ルポ
3-ルポルタージュ　第148回クオリティトークルポ
3-ルポルタージュ　第454回事業所見学会ルポ
4-行事案内／論文募集／会員登録情報 更新のお願い

日本最大級の品質経営総合大会「クオリティフォーラム2025」
～「これからの品質経営」に因んだ85件のベストプラクティス講演が集結～

（一財）日本科学技術連盟 品質経営創造センター、デミング賞委員会事務局 部長　安隨　正巳

1．クオリティフォーラム（QF）とは

QFは、日本科学技術連盟（日科技連）が主催する日本最大級の品質経営に関する総合大会である。業種、職種を問わず、多様な組織が直面する経営課題を「品質経営」の視点から捉え、各社の実践事例を通じた学ぶ機会として毎年開催し、その歴史は1951年「第1回デミング賞受賞記念品質管理大会」に遡る。

現在は、完全オンライン形式で開催され、業務や移動の制約を受けず全国どこからでも参加できる。また、期間中に視聴できなかった講演についても、フォーラム終了後２週間の「見逃し配信」も視聴できる。

2．日科技連が考える「これからの品質経営」－「令和大磯宣言」を踏まえて－

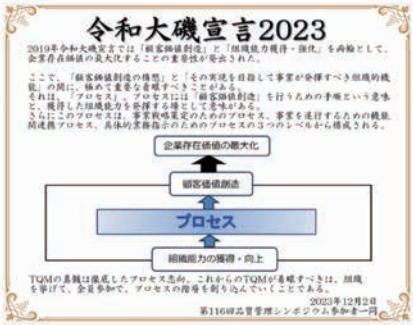
社会や事業環境の不確実性が高まる中、品質経営の役割も大きく変化し、「品質」や「品質保証」の定義も変化している。

「品質」……顧客及び社会のニーズを満たす度合い
「品質保証」……顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動

すなわち、製品の品質保証や不具合防止にとどまらず、顧客価値の創造、社会課題への対応、さらには組織の持続的成長を支える経営の基盤として、品質を捉え直すことが求められているわけである。

こうした問題意識のもと、日科技連は「令和大磯宣言」を発出し、これからの品質経営の在り方を明らかにした。

同宣言では、品質経営を、組織の目的と価値創造を実現するための経営活動として位置づけている。日科技連では、この考え方を基盤に、TQM



を中核としながら、DX、AI、データ活用、人材育成、組織文化などを統合的に捉えた品質経営の進化を進めており、QFでもそのベストプラクティスといえる講演を揃えている。

3．QF2025のプログラム概要

QF2025は、2026年2月25、26日の両日完全オンラインにて実施予定である。

【特別講演】
(1)「顧客の信頼を勝ち取るために必要な組織能力の獲得とＴＱＭ」
㈱メイドー　長谷川 靖高社長
※2010年度デミング賞 大賞受賞企業
(2)「アカデミア発のイノベーションを社会に～iPS細胞技術によるがん免疫治療」
京都大学iPS細胞研究所
金子 新教授
(3)「TQMを基盤とした変革への取組」
DMG 森精機㈱　森 雅彦社長
※2014年度デミング賞受賞企業

【企画セッション・特別セッション（抜粋）】
・AIと品質経営
・ISOからTQMへ　－成長のための次世代品質モデルの提案－
・品質不正・不祥事防止に必要なこと
・グローバルで社員の行動・意識をひとつにする「ウェイ・マネジメント」
・環境変化に対応するQCサークル活動
・「品質経営度調査」上位格付け企業のベストプラクティスに学ぶ
・DXによる新しい価値創造
・トップが語る我が社の品質経営
・DX時代のフロントローディング
-TQMと品質工学の併せ技による競争力の向上-
・製造業競争力を支えるソフトウェア品質
・新たな価値創造と利益をもたらすサービスエクセレンス
-CSを超える、喜び・感動-

【主な登壇企業】
楽天グループ、花王、コマツ、リコー、キリンHD、TOPPAN、パナソニック、明電舎、ダイヘン、ダイキン工業、川崎重工業、コニカミノルタ

【一般事例発表　※一般公募】
工程の品質改善・効率化、マネジメント実践、SQCの活用、QCサークル活動の推進などのテーマでの各社からの実践事例

【主な登壇企業】
デンソー、アイシン、トヨタ紡織、アーレスティ、ヤマハ、ジーシーデンタルプロダクツ、デンソー岩手

4．年に一度の品質経営総合大会

QF2025では、前述の通り、全体で85件に及ぶベストプラクティス講演を通じて、多様な組織による品質経営の実践事例を紹介する。年に一度の日本を代表する品質経営の一大イベントであり、この機会に多くの会社役員、部・課長ならびに学術関係者の参加を期待したい。

Quality Forum
QF2025　公式サイト

● 私 の 提 言 ●

AI時代の品質議論：伝統と革新の架け橋として

クオリティアーツ　池田　暁

2025年を振り返ると、生成AIの奔流がこれまでの「品質」の風景を一変させました。特に開発やリリーススピードを優先するスタートアップやベンチャー企業等では、生産性や市場投入速度の向上のために生成AIの積極活用が進んでいますし、テストや品質保証についても例外ではありません。また、第三者検証サービスを提供する企業やツールベンダーによっても、活用が牽引されているのは御存知の通りです。

しかし、その実態は期待と不安が混じり合っています。確率的に振る舞うAIは、従来の決定論的な検証と異なった新たな不確かさを我々に突きつけてきます。これに対して、技術的な対応はもちろん、いくつかの団体ではガイドラインを示すなど対応する動きがあります。

この状況において、わが国が長年培ってきたTQMやSQCの体系は過去の遺物であるという議論を見かけることは少なくありません。AI時代の新たな品質保証のあり方をゼロから考えるべきであるという意見も見かけます。しかしながら、筆者はそれを考えません。むしろ、培ってきた不確実性を統計的に捉えプロセスで品質を作り込むという考え方は、AIが突きつけてくる不確かさに対する対応として真価を発揮すると考えています。

私が危惧しているのは、伝統的な品質管理の知見と最先端のAI活用現場との分断です。この溝を埋め、AIを活用もしくは実装したプロダクトやサービスの社会的信頼を担保する「新しい品質の規矩」を提示することは重要であろうと考えます。

そのための様々なアイデアを議論するために、AIネイティブな若手技術者や研究者と、ベテランが「品質とは何か」を等しく議論できるオープンなプラットフォームとしての機能を当学会においても強化すべきであろうと考えます。現在OSSコミュニティ中心に様々な議論が進んでいますが、社会的責任や道義、学の裏付けということに当学会が貢献は必要でしょうし、未来の社会に対する私たちの誠実な答えになると考えています。

第453回 事業所見学会 ルポ

DMG 森精機㈱ 伊賀事業所

令和７年７月29日㈫に、DMG 森精機株式会社 伊賀事業所にて「MX によるビジネスプロセスの変革」というテーマに21名が参加するイベントを開催。同事業所2024 年度にデミング賞を受賞。

冒頭、伊賀事業所長の下川様より、1948年の創業以来、工作機械の高精度化や高付加価値なトータルソリューションの提供を通じたお客様の生産性向上への挑戦を続けている。

予測困難な環境変化には、MXマシニング・トランスフォーメーションを推進。ＭＸは、工程集約と自動化によるリーンなマシニングプロセスの生産体制の構築を目指し、「世の中になくてはならない会社」を実現すべく変革を続けているとご説明いただいた。

続いて、生産技術加工担当の常務執行役員　森口様から、多品種少量生産の課題として、大型・重量物設備の高精度加工化、顧客からの多様なカスタマイズ要望への対応、製作リードタイムの短縮化等がある。SDCAサイクルを運用しているものの、イレギュラー事象の多発による日常業務管理上の課題が顕在化し、これに解決するためDX推進の必要性が生じたとのこと。これに対し製造現場に「TULIP」というデジタルプラットフォームを導入し、MX推進を加速。組立手順書やチェックシートのデジタル化、30分サイクル作業等の工夫で、大幅な生産性向上の他、転記ミス、改ざん防止等の品質確保にも繋げている。

工場見学では、工程集約と自動化の現地説明を受けた。3Dデータ活用による試作リードタイム短縮、加工設備モニタリングの見える化改善、工具データの一元管理、TULIPを活用した加工チェックシートのデジタル化等の先進的な取組みが紹介された。また現場では、技術員、技能員を含む多様なメンバーがチーム活動を展開し、現場主体のプログラム開発を行う等、高いモチベーションでイノベーティブな取組みと品質向上に努めている姿が印象的で、現地現場での体験は有意義な学びの機会となった。

最後に、この見学会を開催してくださったDMG 森精機株式会社 伊賀事業所の皆様に心から感謝申し上げます。

内藤　貴彦（トヨタ自動車㈱）

第148回 クオリティトーク ルポ

現場から経営を考える

2025年８月４日㈪に第148回クオリティトークがオンラインで開催されました。テーマは「現場から経営を考える－自らの業務を起点に組織全体の経営を洞察する－」で、玉川大学の木内正光先生にご講演いただき、講演後には参加者間で意見交換が行われました。

「現場から経営を考える」とは、業務を起点に現状を把握し、対象を業務→職場→組織→事業→企業と段階的に広げていくことで、最終的には企業の社会における役割（ビジョン）まで俯瞰できるようになり、経営が理解できるようになるとの考えです。また、現状把握の過程では、伝統的な管理技術の手法である工程分析、標準時間の設定、業務機能展開、品質展開などを活用し、自ら手を動かして考えることが重要とのことでした。

一般的に経営を考える際にはトップダウンでビジョンから考えることが多いですが、現場の業務からビジョン・経営を見ていくボトムアップのアプローチは、自分の業務や職場の組織全体における位置づけを正しく把握できるようになり、担当者が経営を身近に感じやすくなる良いアプローチのように思われました。なお、方針管理については触れられませんでしたが、方針管理活動を通じてボトムとトップのすり合わせを行うことで、現場担当者が自らの業務と経営との関係性をより良く理解できるのではないかとも感じました。本テーマに興味を持たれた方には、JSQC選書37「現場から経営を考える」を一読されることをお勧めします。

参加者による意見交換では、「現場からの意見がなかなか経営に取り上げられず苦労している」「組織間の相互理解が難しい」との意見があり、参加者各人が経験した苦労話や成功体験を共有し、活発な情報交換が行われました。気軽に質問や意見交換ができるのがクオリティトークの良さでもあります。これまで一度も参加されたことがない方は興味のあるテーマを見つけて、また久しく参加されていない方は新たな気づきを得るために参加されてはいかがでしょうか。

大久保　雄二（JSQC認定・上級品質技術者）

第454回 事業所見学会 ルポ

飯 塚 病 院

2025年８月29日、西日本支部主催の第454回事業所見学会が、福岡県飯塚市の飯塚病院にて開催されました。同病院は、2022年度に医療機関として初のデミング賞を受賞しています。この受賞は、30年以上にわたるTQMへの継続的な取り組みと、「日本一のまごころ病院」という理念のもと、医療の質向上に尽力されてきた活動が評価された結果です。本見学会には、大学、企業、医療機関の様々な立場から22名が参加しました。

冒頭でTQM担当副病院長から全病院的な取り組みの紹介があり、その後、「セル看護システム」「医療材料の物品管理」といった看護分野、及び各部門の取り組みの見学がありました。病院全体で年間1,500件にも上る改善活動が展開されていることに驚きましたが、何より強く印象に残ったのは、「まごころの医療」という理念が、全スタッフの行動規範として深く浸透していた点です。各病棟のチームが優先度の高いテーマに継続的に取り組み、優れた改善事例を積極的に他部署へ横展開する組織的な仕組みが確立されていました。特に、救急外来のチーム医療の取り組みは、TQMのあるべき姿を示すものでした。ここでは、応援・補完体制が標準業務として機能し、顧客視点に立った入院待ち時間の短縮や、救急搬入を断らない体制を目指すというプロジェクト目標が実現されていたことが、学ぶべき点だと感じました。

中央検査部では、採血検査の待ち時間短縮のために、統計的手法を取り入れた科学的視点で業務改善が行われており、科学的なアプローチによる医療の質改善がなされていることが窺えました。見学会後半のディスカッションでは活発な質疑応答がなされました。今回の見学を通じて、デミング賞の受賞は、長年にわたる地道な努力と、一貫した理念に基づいたTQM継続の結果であることを深く認識しました。

ご多忙な業務の中、事業所見学をご担当いただいた飯塚病院の全ての職員の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。今回の学びを所属組織の品質向上活動に繋げていきたいと考えます。

深川　良美（京都大学医学部附属病院）

行 事 案 内

●JSQC規格「日常管理の指針」講習会
ー日常管理の本質を学ぶー

日　時：2026年2月27日㈮13:00～17:30
会　場：日科技連東高円寺ビル2階講堂
プログラム：
1．JSQC規格「日常管理の指針」制定のねらい
　山本 渉 氏
（慶應義塾大学／JSQC標準委員長）
2．日常管理の基本
　安藤 之裕 氏（技術士）
3．日常管理の進め方（標準化）
　永原 賢造 氏
（プロセスマネジメントテクノ）
4．日常管理の進め方（異常の検出と処置）
　中條 武志 氏（中央大学）
5．上位管理者の役割、部門別の日常管理
　福丸 典芳 氏
（福丸マネジメントテクノ）
6．日常管理の推進
　新倉 健一 氏
（インフロニア・ホールディングス）
7．全体討論（質疑応答）
　登壇者：講演者全員
　山田 秀 氏
（慶應義塾大学／JSQC会長）
進行とまとめ：中條 武志 氏
（中央大学）
申込締切：2026年2月20日㈮
詳細･申込：https://jsqc.org/std32-001_2025/

●第149回クオリティトーク（東日本）

テーマ：品質マネジメントのAI活用に倫理のススメ
ゲスト：廣野 元久 氏
（元・リコー／JSQC理事）
日　時：2026年3月12日㈭14:00～16:30
会　場：オンライン(Zoomミーティング)
詳細･申込：https://jsqc.org/149qtalk/

●令和7年度QMS-H研究会成果報告シンポジウム

テーマ：病院経営と質の向上の両立を目指して～QMS実践が導く持続可能な病院運営～
日　時：2026年3月14日㈯9:30～17:00
会　場：早稲田大学西早稲田キャンパス63号館03,04,05会議室およびオンラインによる同時配信
プログラム：
特別講演1　慢性期医療の品質マネジメントー人生に伴走する医療の確立に向けてー
　進藤 晃 氏（利定会）
特別講演2　地域のleading hospitalとしての役割を満たす病院づくり
　細田 泰雄 氏（埼玉病院）
特別講演3　病院だからTQM ーデミング賞を通して見えたものー
　福村 文雄 氏（飯塚病院）
申込締切：2026年3月4日㈬
詳細･申込：https://jsqc.org/r7qms_symposium/

●第151回QCサロン（関西）

テーマ：商品開発における高分子材料品質是正の現場力：添加剤起因の品質トラブル事例とその課題
講演者：西野 裕暁 氏（ダイキン工業）
日　時：2026年4月7日㈫19:00～20:30
会　場：オンライン(Zoomミーティング)
申込締切：2026年4月7日㈫18：00
詳細･申込：https://jsqc.org/151qcsalon/

●第456回事業所見学会（関西）

日　時：2026年4月16日㈭13:20～16:20
見学先：ダイハツインフィニアース姫路（兵庫県姫路市）
定　員：30名
※同業他社のお申し込みはご遠慮ください
申込締切：2026年4月9日㈭
詳細･申込：https://jsqc.org/456visit/

●第150回クオリティトーク（東日本）

テーマ：サイバーセキュリティと個人情報保護ーサイバー攻撃から個人情報・重要情報を守るためにー
ゲスト：畠中 伸敏 氏
（リスク戦略総合研究所）
日　時：2026年4月17日㈮13:00～15:30
会　場：オンライン(Zoomミーティング)
詳細･申込：https://jsqc.org/150qtalk/

●第140回研究発表会（本部）発表募集

日　程：2026年5月23日㈯
会　場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル
(1)申込期限
　発表申込締切：3月11日㈬
　予稿原稿締切：4月20日㈪必着
　参加申込締切：5月14日㈭
(2)研究発表・事例発表の申込方法
　https://jsqc.org/140technical_cfp/
(3)参加申込
　3月下旬にホームページにてご案内します

「品質」誌、投稿論文の募集！
会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。
詳細は下記URLよりご確認ください
https://jsqc.org/post/
論文誌編集委員会

会員登録情報　更新のお願い
転勤や異動など会員登録情報に変更がありましたら、下記より変更届を申請ください
学会HP → 会員専用ページ → 変更届

●第23回ヤング・サマー・セミナー

日　程：2026年8月5日㈬～6日㈭
会　場：デンソーグローバル研修センター「AQUAWINGS」（静岡県浜松市）
参加資格：原則35才以下
詳細･申込：https://jsqc.org/23yss/

事　務　局

JSQCホームページ：https://jsqc.org/
イベント・行事：https://jsqc.org/events/

本　部：〒166-0003
東京都杉並区高円寺南1－2－1
日本科学技術連盟東高円寺ビル内
E-mail：jimukyoku@jsqc.org
TEL：03-5378-1506
FAX：03-5378-1507
中部支部：〒460-0008
名古屋市中区栄2－6－1
RT白川ビル7階
日本規格協会名古屋支部内
E-mail：nagoya51@jsa.or.jp
TEL：050-1742-6188
FAX：050-3535-8675
関西支部：〒530-0003
大阪市北区堂島2－4－27
JRWD堂島タワー11階
日本科学技術連盟大阪事務所内
E-mail：kansai@jsqc.org
TEL：06-6341-4627
FAX：06-6341-4615